

城北



平成 29 年 7 月 1 日 現在	
総世帯数	3,554
総人口	7,632
男	3,651
女	3,981

城北人物 風土記

チヨウを愛し チヨウに愛され

浜栄一



白金町の自然観察会で子どもたちに「美しさを心に刻むことが大切ね」と言うのが浜栄一さんの口癖でした。

諏訪市生まれの浜さんは、学生時代から蝶に魅せられ、長野県の職員(土木部)になつてからも勤めの傍ら蝶の研究に打ち込み、在野の研究者として全国の蝶の研究者をけん

引していました。

また、研究成果として「信濃の蝶」や「原色日本蝶類生態図鑑」(共著)などの著書があり、「信州のファール」と呼ばれていました。

県職を退職後、白金町に落ち着いた浜さんは、県内各地に蝶の研究会を立ち上げ、観察会や展示会、講演会を開く一方、蝶を通して自然保護にも力を入れていました。

浜さんは、今年 4 月に 88 才で亡くなるまで、様々な蝶の卵から成



虫になるまでの生態や食草の研究をするなど蝶と共に過ごした生涯でした。

6月11日に浜さんを「偲ぶ会・追悼展」があがたの森文化会館で開かれましたが、会場には蝶の標本や写真、観察ノートなど浜さんのこれまでの研究成果が展示されました。

出席者は蝶の形に切った紙を遺影に供え浜さんに別れを告げました。

出席者のひとりには、「生涯現役としての研究姿勢や人としての生き方など教えていただきましたが、浜さんは『相思相愛』ならぬ『蝶思蝶愛』の人生だったと思います」と話していました。

前日の雨に洗われ、新緑がひとときわ輝く上高地散策会が5月27日に28人が参加して開かれました。

散策会は、大正池から河童橋コースと、河童橋から明神池往復コースの2つに分かれて行われました。

このうち、大

正池コースでは、中山にお住まいの林秋好さんをガイドに、大正池を左手に林の中に設けられた木道伝いに河童橋を目指しました。

大正池は、大正4年に焼岳が噴火した際下を流れる梓川が堰き止められてできた池で、毎年1万㎡から3万㎡の土砂の浚渫が行われていますが、当初に比べるとかなり小さく浅くなっている、ということでした。

焼岳は相変わらず水蒸気を吹き上げていて、地球の鼓動を感じる事ができました。

小鳥のさえずりを聞いたり、猿の親子に出会ったり、川を素早く泳ぐカワマスを見たりして足取りも軽くなりました。

また、木道沿いの湿地には



2017.05.27

新緑の上高地を歩く

三角の葉のコウモリ草、紫のラショウモンカズラ、白いニリンソウなど可憐な花に交じって、幻の花といわれるミドリニリンソウも見られました。

上高地では、「取らない・捨てない・持ち込まない」などの五つのルールがあつて自然が守られています。

参加した皆さんは「素晴らしい！」と感嘆の声をあげた自然の雄大さに酔いしれ、笑顔あふれる一日になりました。

また、木道沿いの湿地には

地域との融和を求めて…… 深志高校の取り組み



松本深志高校で「鼎談深志」と名付けた生徒会・教職員・地元町会の三者の意見交換会が5月27日に開かれ、クラブ活動などによって校内から出される騒音問題について、生徒側から自主的に出された誓約書に三者が調印しました。

主規制による一応の効果を期待しています。三者協議会では、8月末に再び会議を開き、5月からの3か月間の検証をするとも改善すべき点の有無などについて話し合うことにしています。

また、今後は防災や交通問題など幅広い課題にも取り組んでいくことにしています。

個人練習や文化祭のとんぼ祭での応援合戦、更には授業で使われる体育館の窓の開け閉めまで盛り込まれています。

深志高校では、これまでにこうした音が周囲からは騒音として受け取られ、苦情や意見が寄せられていました。

このため、地域との融和を図る目的で当面の緊急課題として騒音について三者協議会で検討を重ねてきたもので、生徒の自

奈川のソバ



清水牧場



山彩館



よいしょ!



通行止め



峠にて



途中休憩